

理學界に於て其處此處から陸續と現はれ出た全く見地を異にする而て心理學の名を獨占せむとする諸主潮に對して心理學そのものゝ原理を反省することによつて夫々批判的考察を施し因て以て各々が心理學全體の中に於て占むる位置乃至意味を明かにしたことである。この所謂哲學的考察によつて新傾向の相互關係が明瞭にさるゝと共に心理學の根本問題即ちその對象及び方法の問題に更に一層深き注意が向けられたのである。併し乍ら本書は元來諸種の新心理學に對する批評を以て主要なる任務とするものであるから原理論そのものに就いては組織的な敘述が試みられてゐないのは望蜀の沙汰とは言へ些か遺憾である。近く出版さるゝと聞く言語の學說に従て著者が此の書に於て驅使した心理學の原理に立脚した斯學の組織的體系を發表されむとことを望むのは獨り本紹介の筆者のみではないであらう。

因に言ふ。ベルリン派の形態心理學に就いては

本書に於ては深く觸れられてゐない。其に就いて著者は序文にも述べてゐるやうに、形態思想が心理學にとつて重要な意味を持つことは著者の形態知覺に關する著述に見るも明かである。彼の批評は第一に形態の概念が心理學の問題そのものゝ範圍内に於ても餘りに擴張され過ぎてゐることに對してある。彼はこの概念が知覺の問題以外に於ては例へば思考作用の方面に於てだけ適用され得るかを大に疑てゐる。第二は形態の概念を物理學の領域にまで持て行かうとするに對して抗論する。これらのことに關しては *Zeitschrift für Psychologie* に掲げられたコフカの「新心理學」に對する論評に詳かである。

彙報

哲學茶話會

四月二十八日(土)午後七時樂友會館に於て
コーヘンの根源を非有……………

由良哲次君

哲學茶話會

五月十二日(土)午後七時、樂友會館に於て
ウイリアムジエームスの認識論を形而上學……………

高阪正顯君

寄贈雜誌新聞

(昭和三年四月
月一五月)

哲學雜誌	昭和三年四月號	四九七號
丁酉倫理會講演集	五月號	三〇七號
理想	四月號	二年一冊
教育心理研究	四月號	三卷四號
學苑	五月號	二三號
哲學青年	四月號	一卷六號
生理學研究	四月號	五卷四號
性相	四月號	第二輯
社會學徒	五月號	二卷五號
學校教育	四月號	一卷八號
同	五月號	一七九號
京部教育	新制高二細目號	一七八號
靜岡縣教育	四月號	二七七號
奈良縣教育	四月號	三七二號
同	四月號	一八一號
信濃教育	五月號	一八二號
同	四月號	四九八號
願	五月號	四九九號
慧	五月號	七年五號

帝國大學新聞 昭和三年四月十六日、廿三日、三十日、五月七日